



## C20-09 『いける神を求めて』

[今月の聖書]

聖歌隊の指揮者によってうたわせたコラの子のマスキールの歌

「神よ、しかが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ。わが魂はかわいているように神を慕い、いける神を慕う。いつ、わたしは行って神のみ顔を／見ることができるだろうか。人々がひねもすわたしにむかって／「おまえの神はどこにいるのか」と言いつづける間は／わたしの涙は昼も夜もわたしの食物であった。わたしはかつて祭を守る多くの人と共に／群れをなして行き、喜びと感謝の歌をもって彼らを神の家に導いた。今これらの事を思い起して、わが魂をそそぎ出すのである。わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。わが魂はわたしのうちにうなだれる。それで、わたしはヨルダンの地から、またヘルモンから、ミザルの山からあなたを思い起す。あなたの大滝の響きによって淵々呼びこたえ、あなたの波、あなたの大波は／ことごとくわたしの上を越えていった。昼には、主はそのいつくしみをほどこし、夜には、その歌すなわちわがいのちの神にささげる／祈がわたしと共にある。わたしはわが岩なる神に言う、「何ゆえわたしをお忘れになりましたか。何ゆえわたしは敵のしえたげによって／悲しみ歩くのですか」と。わたしのあだは骨も砕けるばかりに／わたしをののしり、ひねもすわたしにむかって／「おまえの神はどこにいるのか」と言う。わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」(詩篇 42:1-11)

「それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるうか。」(ローマ 8:31, 32)

「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(I ペテロ 5:7)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「いける神を求めて」という題で有名な詩篇 42 編をご紹介します。イエスキリストを信じ、信仰によって歩み、多くの友と礼拝をささげてきた人が、いつの日か神の光が見えなくなる時があります。祈っても砂をかむようであり、歌っても何の喜びもない。心の底では神の言葉を求め、その愛を慕い求めているのに、喜びが感じられない暗い日々になってしまうことがあります。傷ついた鹿が冷たい水の流れを求めて谷底に降りていくように、私たちの魂は神を求めていくのです。人間は神の光から離れて真の安らぎと喜びを見いだすことができません。詩篇 42 篇は多分紀元前 586 年、バビロンによるエルサレム陥落の後、捕らえられた人々が神を慕い求め捧げた祈りではないかと思われまます。イエスキリストを十字架にかけてまで私たちが愛してくださる神は、必ず祈りに応えてくださいます。「神を待ち望め」というみ声を心に留めましょう。

今月も神の守りがあなたと共にありますようにお祈りいたします。

(お知らせ)

\*コロナウィルス感染が今なお終息しないため、引き続き地区集会はお休みになります。自由が丘チャペルにおいても日曜日の礼拝を除く全ての集会はお休みになっています。

テレフォンサービス 03-3717-5108、YouTube チャンネルからの動画配信などをご利用ください。

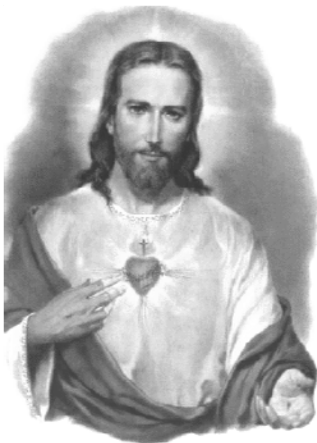
LIGHTHOUSECFI YouTube チャンネル



左の QR コードをスマートフォンやタブレットで読み取りますと LIGHTHOUSECFI の YouTube チャンネルが開きます。チャンネル登録していただければ今後配信される動画が簡単にご覧いただけます。

「病室の椅子にイエス様が」

東 裕子 (兵庫県)



1990年10月31日、私は、初めて西神福音ルーテル教会の扉をあけた。ノルウェーから運ばれてきた木材の香りに包まれ、やっと家に帰ってきたような気持ちになったのを覚えている。いきなり、導かれたわけではなく「母の胎にいたときから」と聖書に書かれているように、私は、幼い頃からずっと「神様はいるのか、いないのか」を真剣に考えていた。少女漫画に描かれた「地獄の絵」を見ては、自分もやがてそのような地獄に落ちると信じて疑わなかった。成長してもその思いは、私の心の中心にあった。教育熱心な家に生まれ、5人兄弟の中でひとり勉強ができなかったことは、私の大きな悩みの種であった。嫉妬深く、執念深く、そんな自分の性格を変えたいと思ってもどうにもならず、時に、自分の激しい感情をコントロールすることができず悩んだ。

そんな私に転機がおとずれた。大学生の時、アメリカにホームステイする機会が与えられた。それぞれステイ先を割り当てられ、私は、韓国から帰ってきたばかりの宣教師のお宅にステイすることとなった。2週間、礼拝、バイブルスタディ、信徒の家庭での交わり以外に全身浴の洗礼式を2回みることに。「イエスを受け入れると天国に行ける。受けいれますか?」と聞かれ「イエス」と答え「日本に帰ったら教会に行きなさい」と言われた。イエスを受け入れたその瞬間から自分の人生の潮の流れが変わったのを感じた。

それから11年後の1990年、私は、ようやくこの教会にたどりついた。英語クラスで宣教師が歌ってくれた「ああ、ベツレヘム 神様は、私が一番苦手な音楽をとおして私の心の中に入ってきた。洗礼の決心がついたものの怖くなり、キャンセルし、教会から足が遠のいた。1992年のクリスマス、私は、緊急入院し手術を受け病室にいた。2人の医者から「ガンじゃないですか」と言われたが、なぜか心は平安だった。三浦綾子さんは、自伝「道ありき」の中で「病室で誰も座っていないその椅子に、まさしくイエス・キリストが座っておられた。いま考えてみると、あの年ほど豊かに満ち足りたクリスマスはなかったような気がする。それはまことに、神が共にいます素晴らしいクリスマスだった。」私も同じような体験をし、人知ではかり知ることのできない平安と私を見つめているイエスのまなざしを感じ、洗礼の決心にいたった。背後には宣教師と神学生の祈りがあった。幼い頃からの死の恐怖から解放され、もう人と比べることのない私だけの人生をみくににいたるまでイエスと共に歩いていこう。「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」マタイ 28:20

.....

東裕子姉は昨年9月23日大阪クリスチャンセンターにおける賛美の祝宴で再会しました。そもそも27年前横浜清水が丘教会時代のA姉の紹介でCFIの交わりに加わられました。長い間神様の導きのみ手は動き続けていました。 小田彰

◆投稿募集のご案内◆

皆様の原稿をお待ちしています。

毎月のCFIニューズレターの裏面に順次掲載させていただきたいと思います。

- ・すくいの体験のあかし
- ・個人的願いや祈り
- ・信仰生活のあかし
- ・主にある交わりのレポート
- ・最近気づいたことや発見したみことば
- ・CFIメッセージの感想や教えられたこと

何でも結構です。800字程度で、手紙、ファックスかメールで送ってくだされば幸いです。